



# CT画像と照らし合わせて学べる 画期的な解剖実習、はじまりました！

大学院歯薬学研究所 医学域教授  
**富田江一**（とみた こういち）

「内視鏡手術などが増えたことで、一部の外科の先生を除いて、実際の臓器や病態を見る機会は、以前と比べてかなり減っています。学生のうちから実際に臓器や病態を見る機会を増やそうと、解剖実習の時間を活用し、ご遺体とCT画像を照らし合わせながら学べるという新しい取り組みをはじめました」と話す富田先生。ご遺体用に用意されたCTによって、法医学分野主田先生が解剖実習で使うご遺体すべてをCTで撮影。撮影した画像は実習室専用のサーバーにストックされ、学長裁量費によって購入されたタブレットで確認しながら解剖実習を行うことができます。



解剖実習に関わる先生たち。質問に応じ、事故や怪我のないよう、学生たちを見守ります。

「この教育システムを開発するにあたり、赤池医学部長、法医学分野西村教授には多大なるご協力をいただきました。CT画像とご遺体とをただ見比べるだけでなく、胸部・内分沁・腫瘍外科学分野丹黒教授、吉田光輝講師他3名の先生方による講義も行って

いただきました。解剖実習は普段でも7〜8時間行い、次々やることがあるので、外科の先生方による講義は今年度一回だけでしたが、各班を回って丁寧に説明していただき、普段あまり質問しないような学生も一生懸命質問していて、充実したものになったと思います」。

CT画像と見比べながらの解剖実習は群馬大学でも行われてい

るようですが、外科の先生の講義まで行われておらず、こうした授業は全国に先駆けた取り組みなのだから。さらにこの授業を支えているのは『白菊会』という献体の会のおかげといえます。

「自分が亡くなった後、医学部や歯学部の子供及び、臨床系の若い先生たちの教育のため、生前に献体を希望し、遺体を解剖することで様々な技術を身に付けて、知識を得てほしいという尊い意思に敬意を表し、解剖実習は黙祷で始まり、黙祷で終わります。解剖実習だけでなく、若い医師の研究や手術技術の向上のための手術トレーニング、特に内視鏡を使った手術は難しい手技が多いので、ご遺体を使ってトレーニングさせてもらうことにも同意いただいている方もいます」。このように恵まれた学習環境があるのは、多くの人の協力があってこそ。貴重な機会を活かし、学びを深め、今後ますます研鑽が進んでいくことでしょう。



5人で1体のご遺体を解剖します。実習室には25テーブルあり、MAXで125名が実習を行います。タブレットも各テーブルに1台配布され、CT画像をその場で確認できます。



実習は長時間に及ぶため、機能解剖学分野の先生2人と医学部担当の技術職員の2人が加わって、実習の流れを事前確認するミーティングも行われています。

# 先輩に続け

2002年3月 歯学部 歯学科 卒業  
国立感染症研究所 主任研究官  
広島大学 客員准教授  
**鹿山 鎮男**（かやま ちづお）

当時は歯学部入学直後から早期体験実習という研究室巡りの制度があり、それがご縁となり一年生の夏休みに口腔生理学教室に入り浸る生活を送らせていただきました。研究のためというよりは研究室で手伝いしながら何となく

上准教授にご指導いただきました。博士課程修了間近となったもののポストが無いと困っていたところ、ご縁があつて歯科保存学の松尾教授（当時）に声をかけていただき、一年間助教をさせていただきました。一年間助教をさせていただき、一年間助教をさせていただきました。それまで基礎研究のみでしたが、周りの先生方に助けていただきました。その後、口腔細菌学で助教として数年間を過ごしたものの任期が切れてしまうタイミ

「内視鏡手術などが増えたことで、一部の外科の先生を除いて、実際の臓器や病態を見る機会は、以前と比べてかなり減っています。学生のうちから実際に臓器や病態を見る機会を増やそうと、解剖実習の時間を活用し、ご遺体とCT画像を照らし合わせながら学べるという新しい取り組みをはじめました」と話す富田先生。ご遺体用に用意されたCTによって、法医学分野主田先生が解剖実習で使うご遺体すべてをCTで撮影。撮影した画像は実習室専用のサーバーにストックされ、学長裁量費によって購入されたタブレットで確認しながら解剖実習を行うことができます。

ングで、これまたご縁があり口腔保健学科の助教として拾っていたいただきました。その後またしても任期が切れそうなきに、これまたご縁で広島大学の細菌学研究室、菅井教授のもとで助教として研究を続けることができました。多くの研究テーマを抱え、走り回っていた中で進めていたプロジェクトの一つ（薬剤耐性）でそこそこの成果を上げることができました。研究成果が朝日新聞の一面に掲載され、薬剤耐性遺伝子を病院の検

査室で比較的容易に検出できるキットを開発東化学株式会社から発売することもできました。そのような経緯がご縁となり、現在も国立感染症研究所で薬剤耐性菌の研究を進めています。

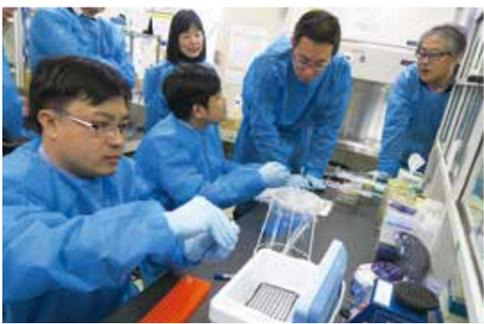
「昼ごはんを食べながらYahoo!ニュースを見ると、X病院から薬剤耐性菌のアウトブレイクがあったとのこと。大変だなあ」と思っている突然PHSが鳴り、「記事、見た？この菌の解析をお願いね」と言われ。記事で見た内容が数分後にそのまま自分の仕事になってしまうような環境で働いています。



ESBL製品見本

今の時代は研究職のポストを得ることが難しいです。この文章には、ご縁がありという表現がたくさん登場しましたが、現在も私が

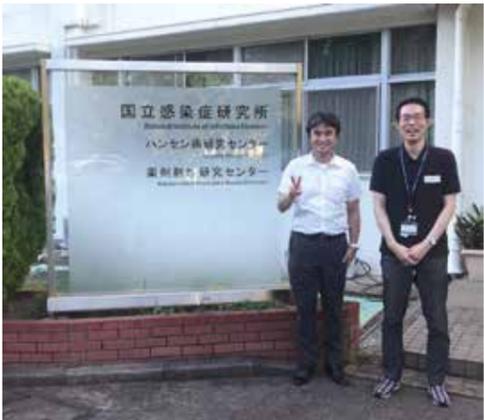
研究を続けられているのはご縁に支えられているからです。私は歯学部に入学当初から、歯科医師にはなるけど歯科医師としては働かない(?)と決めていた変わり者です。ですので、そもそも先輩に続けの執筆者として適切かどうかは微妙なところですが、歯学部卒業後にこのような人生を送っている先輩も居ますという紹介を通じて何かお役に立てれば幸いです。



カンボジアの医療従事者に対する研修風景（著者右から二人目）



カンボジアの医療従事者に対する研修風景（著者左）



現在の職場にて、指導中の大学院生と（著者右）



広島大学のメンバーと（著者左）